

食品リサイクル及び 循環型農業による地域 内ネットワークの形成

こんこうけんせつ
金剛建設 株式会社



企業理念

金剛建設株式会社は、地球環境の保全と資源の枯渇が叫ばれている今日、環境活動に積極的に取り組み、持続的に改善し、汚染の予防に努め、地域社会に根差した建設業として寄与することを目指します。

農業に対する思い

石川県の農業は耕作放棄地の拡大による荒廃、後継者不足の困難に直面しています。そこで、食の安全意識が高まる今日において、「安全・安心」な農産物をより多くの人々へ届けたいと考えております。

きっかけから実際の営農開始まで

当社は土木工事が主体の建設業を営んでおりますが、受注価格の低下や公共工事の削減により、第二の柱として内灘町地内においての農業参入をすることにしました。また、食品廃棄物の再生利用と代替資源化も直面している課題の一つであり、当社グループ内で食品廃棄物を原料として液体有機肥料「有機サンサン」を製造するプラントを有していることから、これを用いての有機栽培に取り組むことにしました。

参入にあたっては過去に農業経験のある1名を農場担当として採用しました。初年度の借入面積は73アールと大きなものではありませんが、当面は栽培技術の習得に向けて幾つかの作物栽培に取り組んでいます。定植や収穫の繁忙期は社内の応援態勢も整えて全社一丸となり、技術面は津幡農林事務所のご指導を仰ぎ取り組んでいます。

参入してから現在まで

まずは栽培技術の習得に向け、露地では玉ねぎ、ニンニクの栽培に取り組み、ハウスでは水菜、西瓜の栽培に取り組みました。うまく栽培できずに自家消費したものもありましたが、玉ねぎは地元食品加工工場の原料として、ニンニクは外食チェーン店の原料として、水菜は大手食品スーパーの惣菜原料として、西瓜も食品スーパーで販売していただきました。

また、循環型農業に関心をもつ学生とも連携し、玉ねぎやニンニクの収穫体験を行いました。今後も食育活動の一環として、子供たちや学生に参加して頂き、食育活動を続けて行きたいと考えています。また、弊社農場(循環有機農園ふーどりん)のネーミングについても、学生さん達が「農産物のブランド化を目指してください」と考案して頂き、ネーミングに負けないように真剣に取り組んで行きたいと思っております。

■ 企業のプロフィール（現況）

代表取締役	金岡 久夫
設立年月	昭和40年8月
所在地	金沢市近岡町
資本金	5,630万円
事業内容	建設業
従業員数	25人

■ 農業参入状況

参入年月	平成21年5月
参入場所	内灘町西荒屋地区
借入農地面積	73a
主な作物	甘藷・人参・水菜など
担当部署名	アグリ事業部
業務執行役員	村田 則之
業務執行役員数	1人
農業従事者数	1人

■ 参入を目指す企業へアドバイス

こんなに大変なものだとは思っていませんでした。種を播けばできるだろう…獲れたものは簡単に売れるだろう…と思っていましたが、そんなに甘くはありませんでした。誰に届けるのか？どんなものを望んでいるのか？を予め知っておく必要があると思います。また、参入企業は同じ悩みを抱えていると思いますので、参入企業同士で意見交換をできれば良いと思っています。

将来はこんな農業をめざします！

食品廃棄物を単なるゴミとして扱うのではなく、肥料へと再生して、それを用いて野菜をつくり、獲れた野菜を食品廃棄物の排出業者へ戻す地域内食品リサイクルループをめざします。既に県内外食企業からの食品廃棄物を受け入れ、外食企業が必要とする野菜の栽培に取り組んでいます。将来はこのリサイクルループが大きな輪となり、環境にも配慮した「安全・安心」な野菜の生産と流通をめざします。

Comment

農業分野の担当者から一言



単に作物を作るだけではなく、ブランド化できれば良いと思っています。それを石川県から日本全国に発信できる農業を目指して今後も頑張ります。

高農林総合事務所長より一言



食品廃棄物から肥料へ、それを用いた農産物栽培などの循環型農業を目指し、また、一方では、地域の学生や子供達が農業にふれあうといったネットワークを形成し、循環型の社会を作っていきたいという思いが伝わってきます。本県でも環境に優しい環境保全型農業を応援しています。農薬を減らしたり、化学肥料の使用を抑えることは、農作物を栽培する上で大変技術を要することと思いますが、農産物栽培の技術力アップ、消費者に望まれる特色ある農産物づくりをめざし、他の農業参入企業とも切磋琢磨していただければ幸いです。